

文化財
だより
ふるさと再発見

パレオパラドキシアタパタイの標本

土岐市文化会館玄関ロビーに、動物の化石骨格が陳列されています。名前は「パレオパラドキシアタパタイ」。ほぼ完全な全身骨格の標本（レプリカ）です。この東濃地方一帯が浅い海に覆われていた新生代新第三紀中新世（約千五百万年前）のころに、海辺で海草などを食べて生きていた動物です。「デスモスチルス」の仲間といわれ、体長約二m、ほ乳類の祖先でした。のり巻を束ねたような形の臼歯・へん平な胸板・ガッチリとした四肢などの特徴を持つ「世界の奇獣」で、日本からアメリカの太平洋岸だけに生息していました。



パレオパラドキシアタパタイの標本写真

デスモスチルス類の化石は、カリフォルニアで世界最初に発見されました（一八八八年）。その後、瑞浪市で頭の骨（一八九八年）、ロシア・サハリンのケトンでは全身骨格が発見されました（一九三三年）。そして、昭和二十五年（一九五〇年）に地元高校生が泉町の隠居山で発見した全身骨格は、世界で二例目の発見となりました（「泉標本」といいます。国立科学博物館蔵）。日本におけるそのほかの主な例では北海道、岩手県、福島県、埼玉県、岡山県などで、いずれも昭和五十二年から五十九年の間に発見されています。それぞれの博物館で工夫を凝らし、昔の姿に復元して太古の奇獣として展示しています。当市と同じ泉標本のレプリカが、三つの博物館で地元産の標本と肩を並べて陳列され、注目されています。

教育夢発信

土岐津小学校「ことばの教室」
「のび のび ことばの教室」



土岐津小学校には、「ことばの教室」があります。市内全域から子どもたちが通ってきています。ことばの教室では、次のような学習をしています。

- 正しい発音（構音）の練習
- 読み方や話し方がスムーズにできるような練習
- 人の話をしっかり聞く練習
- お話がたくさんできるような練習
- ことば（語い）を増やす練習
- 文字や文、文章（日記・作文など）がすらすらと書けるようになるための練習

そのほかに、自分で考えて行動できるよう、自己コントロール（行動



のコントロール）を高めるための取り組みもしています。そのことによって、見通しを持って取り組めるようになった子どももいます。

また、全身運動も行い、体も心も自分でコントロールできるように訓練をしています。このことは、話したり、聞いたりすることに大ききかかわってくるからです。

ここでは、その子が理解しやすく、取り組みやすい方法で授業を行っています。

こうした取り組みによって、子どもたちは「できた」喜びを味わい、次のステップへの意欲がわき、力が「伸びて」いきます。

子どものことで気になることや分からないことがありましたら、遠慮なく、土岐津小学校「ことばの教室」へおたずねください。

